



2009 年度 国際政治 期末試験講評

今回の問題文は下記の通りでした。

1. 答案の作成方法について

〔問題〕

パレスチナ紛争の解決に関して、国際連合の主要機関（信託統治理事会は除く）は、それぞれいかなる役割を果しうるか。

(1) 現行の権限や機能を前提として、自ら考えるところを述べなさい。また、

(2) その権限や手続きに対し、いかなる変更を加えれば、上記紛争の解決に対し、より有益な貢献ができると思うか。その理由と、変更による具体的な効果について、自ら考えるところを述べなさい。

※なるべく具体的な事例や事実に言及すること。また(2)については、すべての機関に言及しなくても構わない。

最初に、どのような手順で答案を作成すべきだったか、具体的に見てゆきます。

①問題文を読み、出題者の意図を理解する。

I. 問題文を一読すれば明らかな通り、そこには2つの設問がなされています。

II. 第1の設問は、「現行の権限や手続きのままで、国連の主要機関（ただし信託統治理事会を除く）は、パレスチナ紛争の解決に関して、それぞれいかなる役割を果し得るか」というものです。ここでいう主要機関が、国連総会・安全保障理事会・経済社会理事会・国際司法裁判所・事務局の5つであることはいうまでもありません。

III. そして第2の設問は、「その権限や手続きにいかなる変更を加えれば、上記の5つの機関は、パレスチナ紛争の解決に対して、より有益な貢献ができるか。具体的な変更案と、変更すべきと考える理由、さらに変更による具体的な効果を説明せよ」というものです。

IV. これらに示された、出題者の意図するところをまとめ直すと、

①国連総会・②安全保障理事会・③経済社会理事会・④国際司法裁判所・⑤事務局は、それぞれパレスチナ紛争の解決に対し「現行の権限と手続きにおいて」いかなる役割を果し得るか。

さらに⑥国連総会・⑦安全保障理事会・⑧経済社会理事会・⑨国際司法裁判所・⑩事務局の、それぞれの権限や手続きにどんな変更を加えれば、パレスチナ紛争の解決に対して、より有益な貢献ができるか。具体的な変更案と、変更すべきと考える理由、さらに変更による具体的な効果について。

というのが、出題者の意図ということになります（ただし、問題文に付せられた条件により、⑥～⑩については、必ずしもすべて取り上げなくても構いません）。

V. 80分という短い時間で、これだけ数多くの論点をきちんとカバーできるかどうかは、講義をきちんと聴き、それを理解していたかに加えて、解答に先立ち「答案構成」をきちんとできるかどうかにかかっています。ではその点につき、次項でみることにします。

②必要と思われる論点を（紙に）書き出す。

I. 繰り返しになりますが、答案のなかで必ず言及すべき論点は

①国連総会・②安全保障理事会・③経済社会理事会・④国際司法裁判所・⑤事務局が、それぞれパレスチナ紛争の解決に対して、現行の権限と手続きにおいて、いかなる役割を果し得るか、であり、以上に加えて、

⑥国連総会・⑦安全保障理事会・⑧経済社会理事会・⑨国際司法裁判所・⑩事務局の、権限や手続きにいかなる変更を加えれば、パレスチナ紛争の解決に対して、より有益な貢献ができるか。ということになります。

II.⑥～⑩については、どれかひとつ書いてあればよいのですが、①～⑤に関しては、ひとつでも洩れると大きな減点につながります。また、これ以外の論点について書いたときも、やはり減点の対象となります。なぜなら「聞かれてもいないことを書いている」からです。たとえば「国連の現在の加盟国数」や「安全保障理事会の非常任理事国に日本が過去何回選ばれたか」といった知識は、この問題で問われていることとは無関係ですから、そんな知識を書いてもマイナスになることはあっても、プラスには決してなりません。反対に、国連総会の決議方法であるとか、国際司法裁判所の判決の拘束力などについては、パレスチナ紛争の解決に結びつくかたちで書いているかぎりは、なるべくプラスに評価しました。

③答案全体の論理構成を組み立てる。

解答を組み立てる上で、まず最初に決めなければならない点は、上記の①～⑩を、どのような順番で書いていくかでしょう。単純に考えれば、番号通りに①から⑤まで書いたあとで、⑥から⑩のうち、書きやすいものを選んで書いてゆけばよいのですが、すこし工夫して、①と⑥、②と⑦、③と⑧、といった具合に組み合わせていってもよいかもしれません（実際の解答では、ほとんどが前者でしたが）。

また書くべき内容（論点）については、講義で取り上げた範囲で十分です。たとえば①や④のところで、国連総会の決議には法的拘束力がない、国際司法裁判所には強制的管轄権がない、といった欠点に言及した上で、⑥や⑨において、それを是正すれば、～のような効果が期待できる、といった論じ方をすればよいでしょう。

なお採点に際しては、いつも通り「きちんと段落わけができていないか」「全体としてまとまりのある構成となっているか」といった面からチェックしました。思い付くままにダラダラと書き並べたような答案は、当然ながら減点しています。

④実際に答案を書く。

（省略）

⑤きちんと読み直し、おかしい所がないかチェックする。

I. この作業をきちんとすれば、誤字や脱字などはかなり減るはずなのですが。誤字を理由に、減点した答案も少なくありませんでした。もったいない話です。

II. また、日本語として意味が通っていない答案も、複数枚見つかりました。これも一度、最初から読み直してみれば、すぐに気づくはずなのですが。

2. 期末試験の採点について

①採点に際しては、最初に下記の諸点に留意しつつ、大まかなチェックを行いました。

I. 設問に対して、きちんと解答をしているか。

→問題文をきちんと読めていない答案は、大きく減点しています。その判断は、上記の①～⑤（さらに⑥～⑩）の論点をきちんと網羅しているかどうかによって行いました。

II. 論旨の明快さや論理性が、大学生にふさわしい水準に達しているか。

→上述の通り、今回の出題は「答案構成がきちんとできるか」が、ひとつの鍵です。したがって、一読して「何が言いたいのか、よく意味の分らない」答案は、この答案構成ができていないと判断して、大きく減点しました。また、段落分けがきちんとなされず、グラグラと改行もなく書き続けている答案も、同じ理由で減点の対象としました。

②つぎに、以下のようなポイントをきちんと押えているか、チェックしました。

I. 必要な論点が揃っているか。

本来なら、①～⑤（および⑥～⑩のうち少なくともひとつ）の論点がすべてそろっていなければ不合格なわけですが、実際には「大幅減点」に留めています。

II. 解答の分量が不足していないか。反対に無駄な記述が含まれていないか。

試験時間は80分あるわけですから、それなりに分量が書かれていないと、全体としての評価はさがります。また上述のとおり、出題と全く無関係の事柄がいろいろ書かれている場合も、やはり評価は下ります。「書いて置けば損にはなるまい」と考えたのかもしれませんが、結局「何が言いたいのか、よく意味の分らない」答案に近くなるだけです。全体としての印象は悪くなるだけです。「求められる知識を、論理的に、かつ過不足なく書く」ことを心掛けて下さい。

ちなみに書き終わっていない「未完結の答案」も、採点はしましたが、それなりに減点してあります。

III. 「基本的なミス」を犯していないか。

たとえば、安全保障理事会の総ての理事国に拒否権が与えられている（正しくは5つの常任理事国のみ）とか、経済制裁は経済社会理事会の担当である（正しくは、経済制裁も安保理の担当）とか、国際司法裁判所の判決に拘束力が認められていないとか、基本的な事実について誤認しているものについては、それなりに減点しました。

③最後に、誤字脱字など、形式的なミスについてチェックをし、あまりに酷いものについては減点しました。

こう書くと必ず、「読めればいいのではないですか」といいます学生が出てきますが、それでは同じように、誤字脱字だらけの履歴書やエントリーシートを、就職活動で提出したら、どういう結果になるかを考えてください。試験中は辞書を引けないので、ある程度までは大目に見ていますが、あまりに酷いものは、減点の対象としています。ちなみに、今回の試験で目についたのは「紛争」を「粉争」と誤記した答案で、数え切れないほど見つかりました。問題文に直接「紛争」と書いてあるわけですから、これを「粉争」と誤記するのは、迂闊にもほどがあります。したがって、とくに厳しく点を引きました。

また枚数は多くありませんでしたが、「です・ます」調と、「だ・である」調が混在している答案もありましたので、これも減点対象です。論述答案における基本中の基本ですから、とくに気をつけて下さい。

④その後、加減点や裁量点なども合算して、最終的な成績を算出しました。答案がボロボロでも、加減点のおかげでA評価になった人がいる一方、答案そのものは素晴らしいのに、加減点によりCになってしまった人もいます。したがって、成績表にAがついていたとしても慢心せず、またCだったとしてもガッカリせず、今後もよい答案が書けるよう、精進して下さい。

なお自分の答案について、より詳しいコメントや指導を希望するひとは、sito@cc.matsuyama-u.ac.jp まで連絡をもらえれば随時対応します。

3. 成績分布について

①履修登録者全体（講義に一度も出席しなかった者も含む）における成績分布

A：24.0% B：10.6% C：19.3% X：29.5% 無資格・欠席：16.6%

②期末試験受験者における成績分布

A：28.7% B：12.7% C：23.2% X：35.3%